

令和 2年 2月14日

令和 元年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 教育学部
氏 名 市川俊輔

活動テーマ	科学的思考能力獲得のための高校生の探究活動の指導
実施期間	令和 元年 4月 1日 ~ 令和 2年 3月31日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容 自ら考え判断し主体的に行動する力を獲得するのに、科学的・論理的思考力が基盤的な能力として重要である。津高校はスーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業を中心に研究活動などを通して、高校生の科学的・論理的思考能力を培うことに取り組んできた。本活動では、報告者から高校生への研究指導を行うことによって、その研究活動をより深化させ、高校生の科学的思考能力獲得機会を増大させることを目的とした。</p> <p>(2) 地域への貢献 (地域の発展・活性化への寄与, 広がり) 研究成果の発表会では、津高校近隣の小中学校生も参加して研究発表しており、学校教育現場での探求活動の振興の重要な場になっている。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況 本活動は、津高等学校の長谷川隆臣先生・水谷憲治先生と連携をとることでおこなった。本活動は SSH 事業経費からも一部負担されている。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり 三重大学教育学部大学生が複数名 TAとして高校生と関わり、学校教育経験を積む機会になっている。</p> <p>(5) イベント等開催実績 (名称, 実施場所, 参加人数等) 7月 SSH 東海フェスタ 名城大学 約10名 1月 1年生研究発表会 津高校 約350名 2月 児童・生徒研究発表会 津高校 約400名</p> <p>(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について 津高校では、3年間を通じた探求活動のカリキュラムを作成している。1年生では少人数でグループを作って試行的に課題研究を行い、年度末には研究テーマを決定する。2年生は研究活動を進め、学内外の発表会で研究成果を発表する。3年生は研究成果を論文にまとめ、学会等への投稿を目指している。 ディスカッションを通して個々のやりたいことを引き出すことで、具体的な研究テーマ設定のサポートを行った。ビデオ会議システム・ビジネスチャット等を活用して、必要時に迅速にディスカッションできる体制をつくった。これらを介してサポートを行い、高校生に研究を实践させ、成果をまとめて論文執筆や口頭発表をさせることができた。</p>